

アトリエ 琉游舎 だより 67号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2019年12月4日発行



- 今年の冬至は12月22日（日）です。冬至には南瓜を食べる風習が江戸時代からありました。現代はどんな野菜でも年中店頭にあるので、野菜の季節感が失せてしまいましたが、夏に採れた野菜で冬至まで保存できる南瓜は、かつては貴重なビタミン源だったのでしょうか。
- 南瓜を食べると中風やしもやけや風邪にならないとされていました。実際カロテンやビタミン類が豊富に含まれています。多くの野菜は新鮮な方が栄養価が高いとされていますが南瓜に限って言うと採りたてより寝かせておいた方が熟して甘さと栄養価が高まるようです。江戸時代の人々は科学的な南瓜の栄養価を知らなかったでしょうから、体感で冬に南瓜を食べる効用を知っていたのでしょうか。経験から導かれた風習の確かさがここにあります。
- 風習や伝承を単なる非科学的な迷信やオカルトの類いと現代人は思いがちですが、今の今までそれが伝わっている事実を一刀両断に否定するのは少し早急かもしれません。
- 琉游舎農園では今年も南瓜が大豊作でした。一つの苗から13個もの大きな南瓜がとれました。南瓜は南瓜だけのシンプルな煮物に限ります。おかずとして食べる人が多いかもしれませんが、私にとっては南瓜の煮物は最高の酒肴の一つです。
- 昔の人の知恵を信じて、8月以来大切に食べてきたので、まだ4個ほど残っています。これから日本酒の美味しい季節、ますます甘さと栄養価が増した南瓜の煮物と日本酒でこの冬も病気知らずで過ごすことができるはずです。
- 冬至の日にはもう一つ「ん」がつく食品を食べると幸福が得られるという伝承があります。南瓜（なんきん）は「ん」が二つつくから殊更に縁起がいいとされたようです。にんじん、れんこん、ぎんなん、だいこん、ちりめん、がんも、うどん、パン、チャーハン、日本酒、ワイン、、、「ん〜」どうもここまできると流言こじつけの類いのような気がしてきます。
- 伝承には忠実に、流言には惑わされないよう冬至の南瓜を美味しく頂きたいと思います。

読書会

12月10日(火)
13時半から

居酒屋の会

12月25日(水)
16時から

写経会

1月は
12日(日)です

映画会

毎週木曜日
13時半から

詩話会

12月は
お休みします

琉游舎の
新年祝祷会 元旦午前零時

12/5	13時半	愛のアルバム(119分)	ケリーグラント主演。出会い、別れ、喜び、哀しみ、全てを一緒に歩んできたレコードは夫婦にとってはメロディーを奏でる「愛のアルバム」、涙なしでは見られないラブロマンス。
12/12	13時半	シェーン(118分)	西部劇の傑作。美しい自然描写、とリアリズムの中に定石の勧善懲悪の要素をふんだんにおりこんだ名作。敏腕ガンマン、シェーンの切ないストーリー。
12/19	13時半	アフリカの女王(104分)	ハンフリーボガード主演。飲んだくれの男が運転する「アフリカの女王号」で戦地を脱出。川下りの幾多の難関を乗り切る、身分違いの男女の冒険とロマンス。
12/26	13時半	レベッカ(131分)	ヒッチコック監督、ローレンス・オリヴィエ主演。裕福な英国人と結婚したものの、事故死した前妻レベッカの影に怯える「私」アカデミー賞作品賞受賞の傑作。

1月2日と9日の映画会はお休みいたします。

狂言綺語…ブツダとの問答

「あなたもブツダになれる」「あなたをはなれて仏教の真理はない」このコピーはNHKで11月に放送された「100分de名著・法華経」のテキスト本の表紙に書かれていたものです。テレビの放送は見えていないのですが、書店でこの表紙を見て思わず買ってしまいました。税込574円です。私は日蓮宗の僧侶ですから毎日のように法華経を読誦し全巻を読み通したことも50回は下りません。2年間に渡る読書会のために一字一句の意味を精査し理解しながら読んでもきました。また手に入る解説書もできる限り購入して読んできました。あまりにも教団擁護に堕した解説書などは無視してきましたが、それでも職業を生業にする僧侶の皆さんに負けにくいだけの読書量と理解はあるはず。ただ、どう読んでも理解できないところや各章間の矛盾、法華経の根本精神と反する記述などの問題は解決できませんでした。ところがこのテキストで（2時間弱で読めます）今までの疑問点はすべて氷解してしまいました。574円と2時間足らずの読書時間です。

このテキストの著者注1の法華経解釈の基本的な態度は、法華経が成立する過程と当時の社会状況、仏教界が直面していた課題を切り離して理解をしてはいけないということです。法華経はあるときに一気に完成したのではなく長い年月を経て書き加えられ挿入されて今に至っています。その加筆にも時代要請が必ずあったはず。明治時代までは紀元400年に鳩摩羅什によって中国語に訳されたものが法華経でしたが、その後サンスクリット語の原典が発見され、中国訳との異同等がたくさん見つかるようになったのです。著者はサンスクリット語原典の言葉の用法、当時のインドの社会と仏教界の状況、原始経典に残されているお釈迦様の言葉(教え)との違いや変遷を精査し、言葉の解釈、なぜこのような表現が必要とされこの章が挿入されたのかについて、当時の社会と仏教界の課題要請に沿って理解し、なぜ法華経は書かれたのかという目的を解き明かしています。その目的は実在のお釈迦様の言葉(教え)の原点に戻ること。数多の教えや仏が散乱している当時の仏教界の現状を一つの「教え」と「仏」に統一することです。これを難しい仏教用語で言うと「一仏乗」と「久遠実成の釈迦牟尼仏」です。私たちの言葉に直すと「すべてのいのちは平等である」と「お釈迦様の永遠性」ということ。そしてもっと分かり易く言うと冒頭のコピーになります。

「すべてのいのちは平等である」＝「あなたもブツダになれる」「お釈迦様の永遠性」＝「あなたをはなれて仏教の真理はない」と、かくも簡単に結論付けられると高名な宗教学者や宗門の偉い人からバッシングを受けるか未熟者と嘲笑されるかでしょう。法華経の教えが全く崇高に聞こえてきません。では最初に仏の教えを唱えたお釈迦様は崇高な存在だったのでしょうか？信仰は仏壇や神棚の奥深くに崇め奉るものではありません。ましてやどこにいるかも分からない絶対者に身も心も無条件に預けてしまうことでもありません。お釈迦様にとっては仲間たち同士、ともに「安らぎのところ」へと歩む行いが仏への道だったのです。ところが亡くなったあとお釈迦様の神格化が始まりました。初めは慕い悲しむ気持ちからだったのですが、次第にそれは僧侶たちの権威を示し特権階級化するための手段となってしまったのです。「教え」が分かり易いことは僧侶にとっては大変不都合なことです。「教え」をかみ砕いて説明する仲介者の役も自分たちの都合の良いように読み替えることも出来なくなってしまうからです。残念ながら宗教の歴史はこの繰り返しなのかも知れません。お釈迦様も日蓮聖人も、その言葉は数多の時と人を経ていく間に読み替えと師の絶対化が始まってしまいます。生きている間は同じ道をもとに歩んできたのに、亡くなってしまうと仏壇の高いところに仏像や祖師像として崇め奉られて身動きが出来ないように幽閉されてしまうのです。「私たちの手の中にお釈迦様や祖師を取り戻すために、今何を行うか」法華経はこのように私に問いかけてきます。

絶対化されてしまった存在と私たち衆生が、自由に障りなく問答など出来る訳がありません。今この私たちが生きている営みの中で日々起こる喜怒哀楽をともに分かち合い、迷いや疑問を語り合う場が信仰の場だと私は信じています。そして私たちのこの日常がお釈迦様や日蓮聖人との問答の場なのです。その問答の場は自由で障りは一切ありません。私たちの日々の行いへの確信と自省の問いかけにお釈迦様や日蓮聖人は「教え」でお答えになって下さるからです。その問答のやりとりの時、私たちの中に仏が内在してきます。「すべてのいのちは平等になる」ときです。つまり「あなたもブツダになる」のです。そしてその問答は私たちが求めれば永遠に続けることが出来ます。なぜならば「教え(法)」は法華経そのものでありそれは「永遠のお釈迦様」のことだからです。私たちが「教え」と問答を繰り返すとき、心に内在する仏によって真理が立ち現れ、人は自分自身に目覚めるのです。これが「あなたをはなれて仏教の真理はない」ということ。仏教は現実社会や人間生活から離れて存在することは決してありません。その中で自分自身を見失うことなく「自己」と「教え」を灯明注2にして生きていくことを仏教は強く私たちに要求をしているのです。だから別の架空の世界に絶対者を仮構することはあり得ません。「現実社会の中で自分自身と法に目覚め生きていきなさい」法華経が私たちに示してくれたことはただこの一点にあるのだと、私は今確信しています。

私がブツダになるとき、あなたもブツダとなるはず。またその逆も真実です。対話を通じて互いに行いの道を歩むとき、たとえそれが一瞬であろうともそれぞれ心の中にお釈迦様の教えが立ち現れてくると信じて、内なる私のブツダとあなたのブツダとの対話を楽しみたいと思います。

琉游舎：戸井 出琉・恭子

今日も琉游舎で皆さんをお待ちしています。(出琉)

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850